



医療ICTの先駆けとして 40年以上医療現場をサポート

病院のDX推進に取り組む

医療関連情報システムの構築、運用サービス、コンサルティングなどを手がける(株)エム・オー・エム・テクノロジー(東京都千代田区)は、人間力+情報力+技術力を駆使して、医療現場の効率化や経営の改善をサポートしている。

エム・オー・エム・テクノロジー

独自開発の電子カルテがヒット



平山光彦 社長

同社は前身時代を含め40年以上、全国シェア1位の富士通製医療情報システム(電子カルテ)の販売とサポート、保守を行ってきた。富士通との強力なパートナーシップに加え、40年以上蓄積されたノウハウと独自開発のサブシステムや課題解決のコンサルティングなど、顧客に寄り添ったサポート力が最大の強みである。また、病院には検査など各部門に卓越した情報システムがあり、各システムと連携して電子カルテは最大の威力を発揮できる。その部門システムメーカーとの密接な協力関係を築いている点も強みだ。

同社の強みが発揮されたのが、2008年に独自開発した精神科病

院向け電子カルテ「MOMACE」。一般病院向け電子カルテに、精神科病院特有の機能を加えることで課題を解決。現在、全国の精神科病院に導入が進んでいる。

18年にはユーザー向け保守サポートセンターを開設。迅速な顧客対応と顧客満足度向上に努め、契約ユーザーが年々増えているそうだ。

そして20年10月、AI(人工知能)を活用し、レセプト(診療報酬の明細書)の内容の正確さを判断するレセプト精度診断AIシステム「a.iブレン(アイブレン)」をリリース。医療経営の改善や業務改善をサポートするオリジナル製品である。

サブスクリプションを計画

現在、同社は複数のオリジナル製品を対象に、メンテナンスフィーを含めたサブスクリプションを開始する計画だ。新中期計画の柱のひとつとして、サブスク型のサービスビジネスとして販売し、売上増を図る考えである。

ある。顧客は利活用が進めやすいメリットがある。

「当面は50%に満たない病院の電子カルテ導入率を引き上げるとともに、部門システムメーカーと連携し、病院のDX推進に取り組みます。さらには、各個人に紐づいた電子健康記録(EHR)としてどこでも利活用できるようにする事を夢見て、患者の負担軽減と病院の効率化・経営改善をサポートし、病院の理想像を追い求め続けます」と平山社長は力強く締めくくった。

AI活用で病院経営改善

a.iブレン
for Hospital

点数	追加算定確率	算
600,000	91.9	0
600,000	99.1	0
600,000	92.4	0
600,000	89.8	0

レセプト精度診断 AI システム
業務改善支援サービス